

# 協議会だより

DHA・EPA協議会  
〒151-0062  
東京都渋谷区元代々木町 32-7  
一般財団法人日本水産油脂協会内  
TEL & FAX: 03-3469-6931  
URL: <http://www.dhaepa.org/>  
E-mail: [dha\\_epa@par.odn.ne.jp](mailto:dha_epa@par.odn.ne.jp)

事務局 南部 章

世界の魚油の最大生産国はペルーであり、各国に魚油を供給しています。この度はペルーのカタクチイワシ (*Engraulis ringens*) 魚について調べてみました。カタクチイワシは生後半年ほどで成魚になり、その寿命は最大で4年になります。多獲性浮魚類の他の魚種と寿命を比べてみますと、マイワシが5~6年、マアジ、マサバも5~6年とのことでした。

ペルー沖のカタクチイワシは資源変動が激しいことでも知られています。これは、漁獲量だけが原因ではなく、数年に一度引き起こされるエルニーニョ現象によって大きな影響を受けることに起因しています。過去5年間のペルーにおける水揚量を見ますと、2011年には713万トンあったのが2012年には226万トンと3分の1以下に減少しています。

また、ペルーの漁業はカタクチイワシに大きく依存しており、全漁獲量の8割前後がカタクチイワシによって占められています。主要輸出品が鮫物とカタクチイワシから生産される魚粉であることから、漁業資源の変動はペルー経済に大きな影響を与えています。

そこで、同国政府はカタクチイワシの資源枯渇を防ぐことを目的として、2009年から零細漁業を除いて漁船ごとに漁獲枠を割り当てるIQ制度を実施しました。ペルーのカタクチイワシの漁獲可能量(TAC)は、資源の再生産に必要な産卵親魚の下限が400万トンと算定されており、これを基に漁期終了後の産卵親魚の資源量が500万トン以上になるように目標設定されています。TACは漁期ごとに大きく変動していますが、特に2014年には産卵親魚の資源量が145万トン程度まで減少したことが調査で明らかとなり、2014年下期(2014年12月~2015年1月)の操業を中止しました。ペルー海洋研究所によると、資源量の減少は、2013年末頃から発生したエルニーニョ現象に原因していると述べています。

昨年(2015年)のペルー上期の北中部における漁獲枠は258万トンと例年並みの漁獲枠が設けられ、4月9日に漁が解禁されてからは、ほぼ100%の漁獲枠が消化されました。また、2015年下期の漁獲枠は稚魚の割合が多いことから例年の半分程度となる111万トンに設定され、11月から漁獲操業が始まりましたが、1月には枠を消化してシーズンを終えました。

IFFOの集計によると、ペルーの北中部・南部を併せた2015年の魚油・魚粉向けの漁獲量は370万トンで前年比62%増となりました。また魚油の生産量は95,000トンで前年の116,000トンに比べて18%減少しておりますが、歩留まりの低下が影響したと思われる。

財務省貿易統計によると、2015年はペルーから日本への魚油の輸出はありませんでした。

## 《公開シンポジウムのお知らせ》 入場無料、事前申し込み不要

日本脂質栄養学会 公開シンポジウム「コレステロール医療の大転換」

日時: 平成28年3月20日(日)13:30~16:45 開場 13:00

場所: お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室(丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分)

顧問の浜崎智仁先生がご講演されます。

詳細は <http://jsln.umin.jp/pdf/topics/sympo160320b.pdf> をご参照願います。

《幹事会のうごき》 平成28年2月12日(金)15:00~17:00に一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成27年度第10回幹事会が開催された。

- ・本年度事業報告および次年度事業計画について、事務局より説明がなされ了承された。
- ・次年度総会講演会および公開講演会の全ての講師が決まった旨の報告があった。
- ・賛助会員の(株)サンライズ21より退会の申し出があり了承された。